

科目区分	【博士】言語科学専攻科目					
科目名	言語科学研究演習II					
担当教員	西垣内 泰介					
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～3	単位数
授業のテーマ	文法理論の特定的研究					
授業の概要	最近の文法理論で注目されているWh構文に関する諸現象の諸相を関連する最近の著作を検討しながら考えていきたい。 特に様々な言語におけるスコープと省略現象、イントネーションとの関わりを中心に新しい見方を探っていきたい。					
到達目標	文法理論の考え方について理解を深めることができる。 言語能力のあり方について専門的に考えることができる、あるいはその見通しができる。 授業の内容を自分の学位論文の進展に役立てることができる。					
授業計画	第1回 日英語のWH構文 統語的移動 第2回 日英語のWH構文 LF 移動 第3回 日英語のWH構文 スコープの問題 第4回 日英語のWH構文 束縛現象との関係 第5回 日英語のWH構文 まとめ 第6回 分裂文の論理構造 指定文と指定文 第7回 分裂文の論理構造 指定文の派生 第8回 分裂文の論理構造 指定文と束縛現象 第9回 分裂文の論理構造 指定文とスコープ 第10回 分裂文の論理構造 まとめ 第11回 イントネーションとスコープ 疑問文とイントネーション 第12回 イントネーションとスコープ 多様性の問題 第13回 イントネーションとスコープ 実験的分析の方法 第14回 概観 第15回 概観と展望 第16回 WH構文と省略現象 先行研究 第17回 WH構文と省略現象 移動 vs. 再構築 第18回 WH構文と省略現象 連閻性 第19回 WH構文と省略現象 統語的制約との関係 第20回 局所性との関係を重点的に 先行研究 第21回 局所性との関係を重点的に 移動と削除 第22回 局所性との関係を重点的に 「そのまま」での削除 第23回 局所性との関係を重点的に まとめ 第24回 視点現象 先行研究 第25回 視点現象 機能主義のアプローチ 第26回 視点現象 構造にもとづくアプローチ 第27回 視点現象 英語における現象 第28回 視点現象 阻止効果 第29回 視点現象 まとめ 第30回 概観					
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱っている問題を自主的に考え、関連する文献に注意をはらう。					
授業方法	演習					
評価基準と評価方法	履修者は各自の現在の関心領域について発表する。評価はその内容と学期末のレポートによる。					
教科書	教室で指示する。					
参考書						

科目区分	【博士】言語科学専攻科目					
科目名	言語科学研究演習III					
担当教員	郡司 隆男					
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	1～3	単位数
授業のテーマ	言語の形式化、特に意味に関する問題の形式的な取り扱い。					
授業の概要	<p>意味論・言語情報の機械処理に関する最近の話題から題材をとり、文法の形式化とその表示の関係、人間の情報処理行動に関するモデル化とその効率的な処理などの問題について考察する。</p> <p>それに基づき、言語を形式的な手段によって分析し、論理的に考察できるようになることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>(1) 言語学的に適切なトピックを選んで設定することができる。 (2) 自分の選んだトピックについて短い論文を書くことができる。 (3) 自分の考察をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。 (4) 研究の方向付けについて自主的に考えることができる。</p>					
授業計画	<p>以下は年間の大体の進行予定。仮に受講生が3人いることを想定しているが、2人目、3人目の代わりに研修生、研修員が担当する場合もあり得る。また、臨時に学会発表が入ったなどの場合は、そちらを優先する。</p> <p>第1回：導入、今後の方針 個々の学生のテーマの決定 第2回：担当者より提供するトピックのディスカッション：基本編 第3回：担当者より提供するトピックのディスカッション：応用編 第4回：1人目の学生の関心のあるテーマについての発表 第5回：1人目の学生の関心のあるテーマについての討論 第6回：2人目の学生の関心のあるテーマについての発表 第7回：2人目の学生の関心のあるテーマについての討論 第8回：3人目の学生の関心のあるテーマについての発表 第9回：3人目の学生の関心のあるテーマについての討論 第10回：春の学会発表を控えた1人目の学生による発表・討論 第11回：春の学会発表を控えた2人目の学生による発表・討論 第12回：春の学会発表を控えた3人目の学生による発表・討論 第13回：1人目の学生の夏休みの課題の提示 第14回：2人目の学生の夏休みの課題の提示 第15回：3人目の学生の夏休みの課題の提示 第16回：1人目の学生の研究の進展状況の報告 第17回：1人目の学生の研究の進展状況の討論 第18回：2人目の学生の研究の進展状況の報告 第19回：2人目の学生の研究の進展状況の討論 第20回：3人目の学生の研究の進展状況の報告 第21回：3人目の学生の研究の進展状況の討論 第22回：秋の学会発表を控えた1人目の学生による発表・討論 第23回：秋の学会発表を控えた2人目の学生による発表・討論 第24回：秋の学会発表を控えた3人目の学生による発表・討論 第25回：1人目の学生の今年度のまとめ 第26回：2人目の学生の今年度のまとめ 第27回：3人目の学生の今年度のまとめ 第28回：1人目の学生の来年度の抱負 第29回：2人目の学生の来年度の抱負 第30回：3人目の学生の来年度の抱負</p>					
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回発表担当者を決めるので、授業前に十分に準備して、資料を用意して他の受講者に配布しておくこと。					
授業方法	セミナー形式。					
評価基準と評価方法	クラスでの発表（おおむね8割）、レポートなど（おおむね2割）による。					
教科書	授業中に指示する。					

参考書	授業中に指示する。
-----	-----------

教科書	
参考書	

参考書	授業内で指示
-----	--------

科目区分	【博士】言語科学専攻科目					
科目名	言語科学研究演習VI					
担当教員	作井 恵子					
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～3	単位数 4.0
授業のテーマ	質的・量的研究方法					
授業の概要	質的・量的研究方法の代表的なものをそれぞれ学び自分の研究に応用する					
到達目標	講義で学んだ研究方法にもとづき簡単な研究を行うことができる					
授業計画	1. What is research? 2. Qualitative research 3. Ethnography 4. Grounded theory 5. Case study 6. Life history 7. Paradigms 8. Presentation 1 9. Interviews 10. Analysis of interview data 11. Interviews and presentation 12. Observation 13. Analysis of observation data 14. Practical problems of observation 15. Statistical procedures 16. Interpretation: reliability and validity 17. Interpretation: Generalizability 18. Interpretation: Connecting with theory 19. Research paradigms 20. Presentation 2 21. Planning a research 22. Research Questions 23. Research design 24. Resources for research design 25. Independent study 1 26. Independent study 2 27. Independent study 3 28. Critical reviews of research design 29. Presenation 3 30. Review					
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の研究テーマについての先行研究を行う					
授業方法	講義、プレゼンテーション					
評価基準と評価方法	プレゼンテーション 50%、研究計画 50%					
教科書						
参考書						